

## 本別町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略(案)についての意見募集結果

本別町における、まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略(案)について、町民の皆様等からご意見を募集したところ、5人から、延べ15件のご意見が寄せられました。

ご意見の要旨及びご意見に対する町の考え方については、次のとおりです。

【ご意見に対する町の考え方の区分】

A	意見を受けて案を修正したもの
B	案と意見の趣旨が同様と考えられるもの
C	案を修正していないが、今後の施策の進め方等の参考とするもの
D	案に取り入れなかったもの
E	案の内容についての質問等

番号	ご意見の内容	ご意見反映区分	ご意見への対応
1	<p>■既存施設を有効に活用した出会いの場の創出「日本唯一！思い出音楽とライトアップで“出会いの愛の架け橋”事業」についての提案(ほんべつ町でしか演出できない人の思い出の場に、かつ、橋の維持費等を捻出する事業案)</p> <p>愛の架け橋において、ライトアップ+お好みの音楽を一曲、時間限定でかけ、家族、友人、部活動・サークル仲間、自治会、恋人同士、だれでもその瞬間を愛の架け橋で共有できる仕組みをつくる。</p> <p>(期待効果) 出会いの場を演出し、人の祝日や悩みの共有、ストレス発散、恋人たちの聖地、クラス会の想いでの曲を皆で共有できる。また本別で集まろう！的な場所と時間を演出できる。 また、もう一度、本別町に来て、あの曲を聴いたり、愛の架け橋からほんべつの町を望んだり、飲食店や道の駅で買い物をしたりとその効果は様々ですが、まずは素晴らしい思い出づくりのお手伝いを町がバックアップすることによって、本別町をインバウンド化し、新規来町者や元ほんべつ出身者に懐かしんでもらえればと思います。</p>	C	<p>既存施設を有効活用し、新しい魅力を創出していく視点は、本戦略策定にあたっての基本的な考え方に合致する考え方であります。</p> <p>本戦略(案)の基本目標2の「本別の特性に磨きをかけ、新しい人の流れをつくる」あるいは、基本目標3の「結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境をつくる」に対応する施策事業のアイデアとして、今後の事業推進に向けての参考とさせていただきます。</p>
2	<p>■将来人口推計の図表14の説明において、(14ページ7・8行目)各パターンに対応する推計人口の記載順が一致していない。</p>	A	<p>以下のとおり、修正します。</p> <p>【修正前】 ・パターン1とパターン2、パターン3による平成52(2040)年の総人口は、それぞれ4,710人、4,490人、4,099人となっており、約600人の差が生じている。</p> <p>【修正後】 ・平成52(2040)年の総人口は、パターン1では4,710人、パターン2では4,099人、パターン3では4,490人となっており、パターン1とパターン2では、約600人の差が生じている。</p>
3	<p>■2060年に5,000人程度の人口を維持する目標としているが、願望であって、達成できそうな数値を目標とすべきではない。</p>	D	<p>地方創生の取り組みについては、まち・ひと・しごと創生法において、中長期的な視点(人口の現状や将来見通し)を踏まえ、必要な取り組みを推進することになっています。</p> <p>ご指摘のとおり、長期的視点では願望的要素も含んでの目標数値ではありますが、人口等の現状分析のもとに設定したものであり、この展望を踏まえて今後、施策を推進することが大切と考えています。</p>
4	<p>■「結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境をつくる」とあるが、どこでも言われているうたい文句にすぎない。不要である。</p> <p>今後、人口減の流れは止められないと総合戦略案にも述べられているのに、何故5,000人目標が出てきて、「結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境をつくる」などの響きの良い言葉を入れるのでしょうか。結婚、出産も安定して生活して働く場があってこそであり、基本目標に入れるならば、環境ではなくストレートに働く場とすべき。</p>	D B	<p>本戦略(案)では、政策の基本方向において4つの目標を定めており、雇用の確保・創出については、基本目標1にて整理しており、「結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境をつくる」部分は、雇用・就業にかかる以外の取り組み内容について整理しており、戦略の構成上の区分化しているところです。</p> <p>現在推進中の第6次本別町総合計画においても、産業・雇用の充実(仕事づくりと所得の向上)が重要と位置づけされており、町民アンケートや本戦略策定にかかる町民会議(まち・ひと・しごと創生推進委員会)においても、本町における重要な課題との認識であります。</p>

番号	ご意見の内容	ご意見 反映 区分	ご意見への対応
5	<p>■人口減対策は手段であり、目指すところは住みよい町づくりである。「本別町に住みたい、住み続けたい」まちをつくるのが地方創生の原点であり、政府の言辞とか消滅都市なる言葉に惑わされることなく、本質の議論をつくしていただきたい。</p> <p>また、これまでの本別町の施策を振り返れば、持続性に欠ける印象があるので、今後の推進にあたっては20代から30代の青年を起用して推進の主役にしていただきたいし、若い人たちの意見を聞いていただき、これからの人たちに本別町の未来を託したい。</p>	C	<p>総合戦略等策定にあたっては、住民代表、自治会、産業界、学校、金融機関、労働団体などで構成する「まち・ひと・しごと創生推進委員会」において、多くの意見をいただいております。比較的、若い世代の方が担っていただいております。</p> <p>「まち・ひと・しごと創生推進委員会」のみならず、施策の推進等にあたっては、関係機関・団体含め、多くの方からのご意見をいただきながら推進に努めて参ります。</p>
6	<p>■農業の振興に対する提言 (効率的な経営と生産力の向上が必要であり、そのためには大胆な改革が必要)</p> <p>①農業の地域力を結集して耕地面積を広げ大型化を図る。 ②農業経営者、担い手の先進国アメリカへの視察・研修・実習を図る。 ③役場担当、農協、農業地域者等で推進母体を構成し、具体的な工程表や図面を作成し、実現に向かう。</p>	C	<p>ご提言のとおり、農地の利用集積については、本町農業の経営安定を図るためには重要な課題と捉えております。</p> <p>また、農業者の視野を広げ地域農業のリーダーを養成するため人材育成補助事業により海外への派遣制度がありますが、近年は利用されない状況が続いています。</p> <p>本町では、農業の営農改善を推進するため行政、JA及び農業関係団体により町営農指導対策協議会を組織していることから、こういった関係機関での協議を踏まえ、関連する事業の確保や施策の検討を行って参りたいと考えております。</p>
7	<p>■現在在住者の安心感を高めるための提言 (移住者を呼び込み、会社誘致、人口増、人々の心の豊かさ等を呼び込む)</p> <p>①老後の医療・介護の充実化を維持し高める。 担い手の質向上も含めさらに高めてほしい。 ②老後の集合住宅(特養老人ホーム等)や、高齢者、独居者の住居地を整備する。太陽の丘を一大福祉ゾーンとし、町立病院を中心に位置づけて整備する。 ③高齢者の持ち家の生前買い取り制度を目指す。 ④人の気軽に集まり易い場所づくりが必要。 本別公園の整備とあるが遠すぎる。日常気軽による場所として、利別川の河川を活用。「桜並木」の実現や「花」や「身近」を要素に。</p>	C	<p>本戦略(案)の基本目標4「将来にわたって元気な地域をつくり、安心・安全な暮らしを確保する」に対応する様々な諸課題については、町民生活を営むうえで、基本的なところであり、すべての課題等につながる部分でもあると考えております。</p> <p>医療、介護の充実につきましても、戦略(案)では、雇用確保の視点において、介護職員の確保のための支援施策を盛り込んでおり、また国保病院保病院運営モニター制度を継続する中で、病院の運営やサービスに対する様々な意見を聴取し、病院運営の改善につなげて参りたいと考えております。</p> <p>本別公園の整備につきましては、町民の方の利用はもとより、町外から新しい人の流れを作り、交流人口の拡大を図るための魅力づくりに取り組むものであります。</p> <p>戦略(案)の内容におきましては、これまで策定にあたっての議論や町民アンケート結果を参考にし、焦点化するなどの整理を行ってきたところであり、ご提言については、それぞれの個別分野における課題への対応と併せ、今後のまちづくりにおける議論の参考とさせていただきます。</p>
8	<p>■防災への対応についての提言</p> <p>①各戸に至急防災無線の設置を図る。 ②国交省の「ハザードマップ」に登録し、町民に現状を伝える。 ③自治会を中心として、弱者(車が無い、介護者がいる。避難できない等)を含めて避難方法を話し合っておくべき(行政が指導する)。 ④高台の施設を避難場所として、「マニュアル」を簡明に作り直す事が必要。</p>	C	<p>本戦略(案)では、町民力を活かす地域コミュニティ、地域住民ネットワークの充実について自治会や自主防災組織などにおいて、行政と住民の協働・連携を図っていくこととしております。</p> <p>また、本町ハザードマップ(防災ガイドマップ)においては、平成25年3月に紙媒体にて全戸配布しており、防災無線の設置についても現在検討中であります。</p> <p>全町的な防災対策の推進にあたっては、町民等が災害に対して迅速な対応ができるよう地域防災計画に基づく災害対応を基本に防災体制の強化や防災意識の高揚を図る取り組みを進めて参ります。</p>
9	<p>■全体的な提言として</p> <p>時代の趨勢(すうせい)、人々の生き方、時の流れは止められない。どんな施策を打っても効果が出にくいのが現状です。そんな時は、自身の足元をしっかりと見て、一つ一つ結果を出してゆくこと。行政は、「投資(税金)対効果」が求められる。足元とは「住民」です。</p>	C	<p>ご指摘のとおり、人口減対策に特効薬はないとも言われておりますが、今回の取り組みにおいては、推進状況について、住民代表、自治会、産業界、学校、金融機関、労働団体などで構成する「まち・ひと・しごと創生推進委員会」において、毎年、数値目標や重要業績評価指標(KPI)の達成状況を踏まえ、施策等の効果を検証しながら進めて参ります。</p> <p>地方創生の推進にあたっては、今後も多くの町民のご意見等を踏まえ、必要に応じて、施策・事業の見直しを行いながら進めて参ります。</p>

番号	ご意見の内容	ご意見 反映 区分	ご意見への対応
10	<p>■人口減少対策について</p> <p>①教育を特徴のあるものにしていく。例えば柏葉高校並みの進学校にする。またはスポーツに力を入れる。</p> <p>②病院は信頼され充実したものにする。良い医師の確保と看護師の対応が重要。</p> <p>③本別にある各企業や公務員の単身者へ家族で住んで貰うよう要請する。</p> <p>④病院は町独自の運営は大変であるので距離の近い足寄町と連携する。</p> <p>⑤子どもの出生率を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町が子どもを育て、将来、本別に戻り住んで貰うことを原則条件とし、第3子からの補助費を高め、第4子からは学費等を全額負担する。</li> <li>・例えば看護師等の特殊な職業を目指す子どもの教育費に対し補助をし、町に戻って職についてもらう。</li> </ul>	C	<p>ご認識のとおり、今後の人口減少に対し、いかに対応していくかが地方創生の取り組みであります。</p> <p>医療・福祉の充実は、今後も継続し取り組んでいかなければならない重要な課題であり、本戦略(案)では、これまでの基本的な取り組みを踏まえ、雇用確保の面における介護職員の担い手確保に向けた取り組みや、子育て支援においては、保育料の見直しやサービスの充実に努めていくこととしております。</p> <p>また、町国保病院維持の観点から、国保病院運営モニター制度を継続する中で、病院の運営やサービスに対する様々な意見を聴取し、病院運営の改善につなげて参りたいと考えております。</p> <p>ご意見の内容については、今後、総合戦略の具体的な推進にあたって、あるいは、それぞれの個別分野における課題への対応と併せ、今後のまちづくりにおける議論の参考とさせていただきます。</p>
11	<p>■医療・介護といった福祉の充実を図るべき。</p>		
12	<p>■産業について</p> <p>豆のまち本別をもっともっと付加価値を付け、特徴のある豆を栽培あるいは加工品として出していく。これには試験研究が必要であり、町・農協・関連企業等共同で長い目で真剣に取り組む必要がある(例えば豆焼酎)。</p>	C	<p>「豆の町ほんべつ」は、町外からも一定の評価をいただいております。また町民アンケート等においても認知度が高く、広く浸透してきているものの、豆の「魅力」といった面では、否定的なご意見もあります。</p> <p>地域産業振興の点からも、町全体として「豆の町」としての全体ビジョンや共通の認識を作り深めながら、関係機関等とも連携した特色のある取り組みを通じ、「豆の町」の付加価値を創出して参りたいと考えています。</p>
13	<p>■町の空洞化を少しでも避けるため、町営住宅はなるべく町の中心に建てるようにする。</p>	C	<p>現在、本町の公営住宅においても、空家が目立つようになってきております。</p> <p>既に高齢者住宅については、一部、市街地への整備を進めてきておりますが、今後の公営住宅建設においても、生活の利便性が高い、市街地中心への移転建替も視野に入れながら、計画的かつ社会情勢の変化に適應した公営住宅の整備に努めて参りたいと考えています。</p>
14	<p>■観光を中心とした産業の育成について</p> <p>産業育成のために観光を中心としたもの、具体的にはヨーロッパの農村観光、グリーンツーリズムが良いのではと思います。</p> <p>平和の町、福祉の町、本の町、豆の町、農業の町本別などといった様々なキャッチコピーが統一感を失くし、本別がどんな町なのかをわかりづらくしている感じがします。本別はこんな町だといった代表される点の一つを選び、それを中心に町づくりを行い、観光を中心とした産業の育成を行っていくべきではないかと思えます。</p>	C	<p>現在、本町において、民間団体が主体となり道外高校生を受入を行う農村ホームステイの取り組みが行われております。</p> <p>修学旅行生に特化することなく、本町への人の流れをつくる一つの手段として、移住施策とも連携しながら、体験型滞在型観光の推進を図っていく必要があると考えております。</p>
15	<p>■小・中・高校・図書館を中心とした教育の体制づくり</p> <p>図書館は実用書を増やしたら良いと思います。</p>	C	<p>本戦略(案)では、基本目標3の「結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境をつくる」において、地域で子どもを育む取り組みを推進することとしております。</p> <p>図書の充実においては、より多くの方が利用できる環境や体制づくりが大切と捉えております。児童・生徒や町民ニーズ・要望を踏まえながら環境整備を図って参りたいと考えております。</p>